



令和7年度
山形市
地域包括支援センター
の概要

山形市 長寿支援課

目 次

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 地域包括支援センターの概要	1
2 地域包括支援センター 経営者会議	3
3 地域包括支援センター センター長会議	3
4 地域包括支援センター ブロック情報交換会	4
5 機能別部会活動	4
6 自立支援型地域ケア会議	5
7 地域ケア調整会議	5

II 各地域包括支援センターの活動

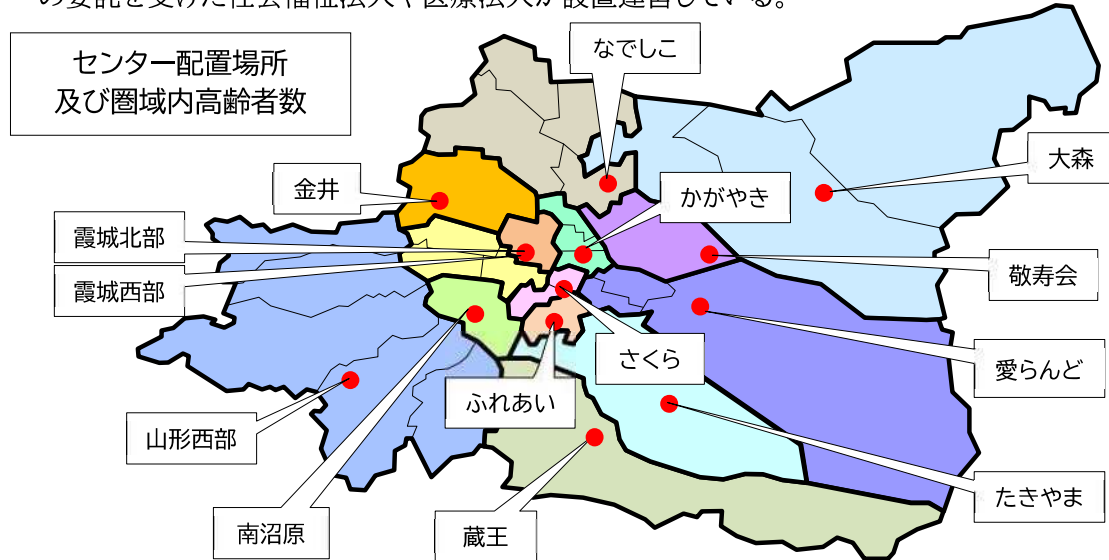
1 済生会なでしこ地域包括支援センター	7
2 地域包括支援センター大森	9
3 地域包括支援センター敬寿会	11
4 たきやま地域包括支援センター	13
5 地域包括支援センターふれあい	15
6 山形西部地域包括支援センター	17
7 篠田好生会さくら地域包括支援センター	19
8 地域包括支援センターかがやき	21
9 山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター	23
10 山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター	25
11 蔵王地域包括支援センター	27
12 済生会愛らんど地域包括支援センター	29
13 南沼原地域包括支援センター	31
14 金井地域包括支援センター	33
15 山形市基幹型地域包括支援センター	35

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。



済生会なでしこ地域包括支援センター				
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会				
所在地	山形市長町751			
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳			
圏域人口	20,735	高齢化率	34.4	
高齢者人口	7,141			

地域包括支援センター大森				
社会福祉法人山形				
所在地	山形市大字大森2139-1			
担当地区	楯山、高瀬、山寺			
圏域人口	8,050	高齢化率	43.0	
高齢者人口	3,458			

地域包括支援センター敬寿会				
社会福祉法人敬寿会				
所在地	山形市五十鈴3-6-17			
担当地区	鈴川			
圏域人口	17,795	高齢化率	30.1	
高齢者人口	5,361			

たきやま地域包括支援センター				
社会福祉法人山形市社会福祉事業団				
所在地	山形市大字岩波5			
担当地区	滝山			
圏域人口	22,193	高齢化率	28.4	
高齢者人口	6,313			

地域包括支援センターふれあい				
医療法人社団悠愛会				
所在地	山形市桜田西4-1-14			
担当地区	第六			
圏域人口	13,020	高齢化率	30.9	
高齢者人口	4,028			

山形西部地域包括支援センター				
社会福祉法人山形市社会福祉事業団				
所在地	山形市すげさわの丘46			
担当地区	南山形、本沢、大曽根、西山形、村木沢			
圏域人口	17,070	高齢化率	33.9	
高齢者人口	5,779			

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町2-68		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,243	高齢化率	32.1
高齢者人口	4,577		

地域包括支援センターかがやき			
社会医療法人松柏会			
所在地	山形市旅籠町1-7-23		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	20,342	高齢化率	30.4
高齢者人口	6,148		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第七		
圏域人口	14,951	高齢化率	29.6
高齢者人口	4,429		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第十、飯塚、榎沢		
圏域人口	14,796	高齢化率	32.5
高齢者人口	4,805		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高79-7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	15,860	高齢化率	33.5
高齢者人口	5,311		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市妙見寺4番地		
担当地区	第五、第八、東沢		
圏域人口	20,721	高齢化率	30.7
高齢者人口	6,369		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木1129-1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	16,982	高齢化率	30.2
高齢者人口	5,130		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場903		
担当地区	金井		
圏域人口	15,317	高齢化率	30.0
高齢者人口	4,594		

基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	232,075	高齢化率	31.6
高齢者人口	73,443		

※担当地区を持たない

R8.4.1 現在

2 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和7年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 6月27日	・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・各センターの職員配置状況について ・外部会議への委員選出について ・令和7年度地域包括支援センター評価事業について ・ケアプランデータ連携システムの普及促進について ・山形市介護予防・日常生活支援総合事業の見直しスケジュールについて ・地域包括支援センターの基本委託料の検討について ・高齢者の個別避難計画作成業務の取組について
第2回 9月26日	・地域包括支援センターの相談実績等について ・地域包括支援センターの指定介護予防支援等の実施状況について ・ケアプランデータ連携システムの普及状況について ・第10期介護保険事業計画の策定日程及び協力依頼について ・山形市介護予防・日常生活支援総合事業の見直しの進捗について ・山形市生活お役立ちガイドブックナビ「べんりだず」活用状況について ・居住サポート住宅制度の開始について ・認知症について考える市民セミナーについて ・介護保険事業の実施状況について
第3回 1月22日	・令和7年度自立支援型地域ケア会議（市・包括主催）の実施状況及び地域課題の整理について ・山形大学医学部との包括連携協定に基づく共同事業について ・山形市介護予防・日常生活支援総合事業の見直しの進捗について ・商工会議所を通じた企業との連携について ・聴こえくつきり事業の取組状況について ・令和8年度地域包括支援センターの運営について ・令和7年度地域包括支援センター評価事業の実施結果について ・介護保険事業実施状況について ・在宅医療・介護連携推進フォーラムの周知について

3 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和7年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 4月11日	・長寿支援課・介護保険課・指導監査課・地域共生社会課の業務体制及び地域包括支援センター等の職員体制について ・令和7年度地域包括支援センター長会議等の開催予定について ・山形市長寿支援課主催の研修会等の開催日程について ・山形市による介護保険以外の生活支援サービスにおける変更点について ・令和7年度介護予防教室等の予定について
第2回 3月 (書面開催)	・令和7年度山形市地域ケア調整会議での協議内容等について ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業の実施状況について ・地域包括支援センターの運営状況及び評価事業について ・年度の基地代えに係る提出物等のスケジュールについて

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3ブロック(北東、中央、南西)に分かれ、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック随時開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの4つの機能(総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務)を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性に基づき分析し、解決に向けた取組みを行った。

【令和7年度の実施状況】

名称	主な取り組み
総合相談部会	ネットワーク連絡会のあり方について協議やごみ屋敷対応フローチャートの内容確認を行った。また、各ブロックから挙げられた地域課題の整理を行い、課題解決に向けた関係機関との連携のあり方について検討した。
権利擁護部会	身寄りのない方への支援をテーマに、社会資源情報ハンドブックの更新や事例検討を行うとともに、成年後見制度の理解促進や医療連絡会との情報交換を通じて、地域における支援体制の充実に取り組んだ。
包括的・継続的ケアマネジメント部会	宅管理者主任ケアマネジャーへの支援(管理者向けの集まりの場)、世帯支援の視点、ケアマネジャーと地域のつながり(個別避難計画の作成に向けて)を実施。主マネ交流会を企画し、上記のテーマについても情報共有した。
介護予防ケアマネジメント部会	介護予防ケアプラン作成のヒント集のブラッシュアップを行い、介護予防ケアマネジメントのプロセスを再確認することで、自立支援に向けた適切なケアマネジメントの実践につなげた。また、フレイル予防の周知啓発を目的に、オールフレイル・アイフレイル・聴こえのフレイル・セルフケアに関するリーフレット及び「40代からのフレイル予防」ポスターを作成し、地域のサロンや住民健診等で普及啓発を行った。

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者の QOL の向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につなげた。

令和6年度からの変更点として、市主催の会議においては、上期(おおむね5月から9月)に行った事例について、約6か月後のモニタリング結果を活用し、下期(おおむね10月から2月)に同様の会議を開催することとした。

また、会議から見える地域課題の整理を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員、看護小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者：薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士

【令和7年度の開催】

市主催：7回開催(14事例) 地域包括支援センター主催：28回開催(56事例)

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、介護保険事業所、多機関協働支援センター、地域医療連携室連絡会、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和7年度の開催】

3回(7/8※書面開催, 12/17, 2/17)

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動

1 済生会なでしこ地域包括支援センター



1 総合相談に関する取組

◇ ネットワーク連絡会

開催日	内容
7月17日	・令和6年度事業報告 / 令和7年度事業計画報告 ・情報提供 「認知症高齢者を地域で支えるために」 おれんじサポートチームえがお / 山形警察署漆山駐在所 ・グループ懇談会

◇ 個別地域ケア会議 8回 ◇ センターだよりの発行 4回 ◇ 生活担い手養成講座 2回

◇ 認知症サポーター養成講座開催 3回 ◇ 認知症カフェ立ち上げ・継続支援

◇ 関係機関会議・行事等への参加

内容	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	5回	5回	4回	1回
福祉推進会議	1回	1回		1回
福祉協力員研修会	1回		1回	1回
その他	・四者懇談会 ・文化祭		・福祉まつり ・文化祭	・福祉マップ更新研修 ・総会・文化祭 ・我がごと丸ごと推進事業

2 権利擁護に関する取組

◇ 個別ケース対応(ケース会議等も含む)

成年後見/福祉サービス利用援助事業検討 3件 高齢者虐待 1件
消費者被害(防止啓発・周知活動含む) 4件 ACP/人生会議 3件
その他(生活困窮・困難事例等) 15件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組

- ◇ 居宅介護支援事業所等研修会 1回 ◇ 居宅管理者交流会 1回
◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 13回
◇ 介護支援専門員に対する個別支援 11件 ◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

4 介護予防に関する取組

◇ 地域団体支援(立ち上げ・運営支援)

通所型サービスB(ひとあひ処「合」)運営支援 13回 通いの場(百歳体操) 45回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 3回 出前講座 7回
聴こえくつきり事業(講座・チェック) 4回

◇ 介護者支援(介護者の会/介護者サロン)

けあらーずカフェ開催（介護者交流会） 1 回

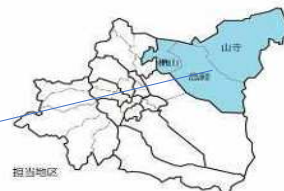
紹介したい取り組み

事業名	山形市聴こえくつきり事業 in 千歳地区、大郷地区
事業の目的	聴こえのフレイルの周知を推進し、聴こえに関心を持っていただく機会をつくり、社会参加のきっかけづくりをする。
事業概要	地域包括支援センター主催として、山形市聴こえくつきり事業の「耳からの健康講座」と「聴こえのチェック」をコミセン2か所で開催。 【千歳地区】 R7/9/11 耳からの健康講座（大野目耳鼻科原田先生）32 名 9/25 聴こえのチェック 20 名 【大郷地区】 R7/10/16 耳からの健康講座（のだ耳鼻咽喉科クリニック野田先生）37 名 10/28 聴こえのチェック 14 名 耳からの健康講座は山形全市民を対象とし、なでしこ包括圏域外からも参加いただけた。聴こえのチェックはなでしこ包括圏域の（出羽、大郷、明治、千歳）住民を対象に実施。 2 地区あわせて、延べ 104 名の方にご参加いただいた。
成果または感想	なでしこ包括圏域には耳鼻科医院がなく、他圏域の先生方からの協力を得ての開催となった。参加者からは「健康な生活に聴力はとても大事という事が分かった」「耳鼻科を受診しようと思った」「自分の聴こえの状態を確認できて良かった」などの声が聞かれた。R8 年度は明治地区と出羽地区での開催を予定しており、明治地区は人口減少が進み交通の便の課題もあるため、集客の課題あり。
事業名	居宅介護支援事業所等研修会
事業の目的	介護支援専門員相互のネットワークを作り、情報交換等により多機関連携・協働して効果的な支援に取り組めるようにする。
事業概要	令和 7 年 11 月 13 日 千歳コミュニティセンターで居宅介護支援事業所等研修会を開催した。一つの世帯または個人が複数の課題を抱えるケースが増加しており、なかでも障害福祉と介護保険の連携が必要となる世帯が増えていることから、障害者支援事業所・向陽園地域生活支援センター心音様より障害福祉と介護保険を併用した具体的な支援の取組みについて、事例を交えてご講義いただいた。グループワークでは世帯支援に関わった事例の情報を共有した。 居宅介護支援事業所、小規模多機能 13 事業所の介護支援専門員 26 名の参加があり、活発な意見交換が行われた。
成果または感想	参加者からは「障害の関係機関や相談先が知る事ができてよかった」「グループワークの話合いは刺激を受け、連携を深めたいと思った」「もっと時間が長くてよかった」などの感想が聞かれた。研修後アンケート調査を行い、包括内で振り返りを行った。課題を整理し次回の研修会等につなげ、居宅介護支援事業所等への後方支援の強化を図っていききたい。

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談に関する取り組み

楯山・高瀬・山寺



◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
6月13日	楯山・高瀬・山寺	楯山・高瀬・山寺の各地区で考えられる災害と個別避難計画について
2月26日	楯山・高瀬・山寺	ネットワーク連絡会「活動報告、3地区の現状」

◇ 地域ケア会議 個別事例 6回 地域課題 0回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 関係機関会議・行事等への参加 0回

◇ 地区会議・役員定例会等への参加 55回

内容	楯山地区	高瀬地区	山寺地区
民生委員児童委員定例会	10回	11回	9回
福祉推進会議	1回	1回	0回
福祉協力員研修会	1回	3回	2回
その他	三者会議 5回	三者会議 8回 高瀬高齢者連絡会 3回	三者会議 4回

◇ 地区行事への参加 8回

楯山地区：福祉と健康のつどい 高瀬地区：百歳体操
山寺地区：高齢者ふれあいの集い（健康講話）、百歳体操

◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ／声掛け訓練等 1回

◇ 出前相談0回 ◇ SNSでの情報発信0回

2 権利擁護に関する取り組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 6件 高齢者虐待 3件 消費者被害 0件
ACP／人生会議 0件 その他 5件（例：生活困窮等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 0件 高齢者虐待 0件 消費者被害 0件
ACP／人生会議 0件 その他 0件

項目／地区	楯山地区	高瀬地区	山寺地区	延べ件数
後見関係	1	4	1	6
虐待関係	1		2	3
生活困窮等	1		1	2
その他	2		1	3
計	5	4	5	14

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

- ◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 3回
- ◇ 圏域内サービス事業所との連携
 - 地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 16回 サービス事業所連絡 0回
 - その他 0回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援
 - 個別対応 0回 ケース会議等 7回 事例検討会 0回
 - 居宅介護支援事業所連絡会・研修会 3回 その他 0回
- ◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

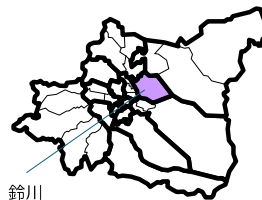
4 介護予防に関する取組み

- ◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）
 - 通所型サービスB 回 通いの場（百歳体操）・サロン 8回
- ◇ 介護予防普及啓発
 - 介護予防教室・健康講座等開催 2回 出前講座 0回
 - 認知症予防教室協力 1回 その他（公民館共催事業等） 0回
- ◇ 介護者支援（介護者の会／介護者サロン） 0回

紹介したい取り組み

事業名	第1回圏域内介護支援専門員連絡会
事業の目的	圏域内で起こり得る災害について学び、防災への意識向上へ繋げるため、また個別避難計画を作成するにあたり関係者の方と情報共有し具体的な対策を考える機会とするため。
事業概要	令和7年6月13日14時～16時 高瀬紅花ふれあいセンターにて実施。防災アドバイザーの佐藤様より楯山・高瀬・山寺の各地区で考えられる災害と個別避難計画についての講座をしていただいた。圏域内の介護支援専門員だけでなく、圏域内に住んでいる方を担当している介護支援専門員や地域の民生委員の方にもご参加いただいた。佐藤様からは、大雨や地震の基本的なことや各地区での水害が発生した場合の様子を地図での説明や、地区防災計画と個別避難計画との整合、大雨による要支援者の避難についてハザードマップを見ながらの説明をしていただいた。民生委員の方からも避難所の備蓄品についての質問なども聞かれました。また講義終了後、介護支援専門員と民生委員との情報交換の時間を設けました。地域にお住まいの高齢者の方についての情報交換や地区の防災計画について民生委員の方より説明をいただきました。
成果または感想	介護支援専門員20名と民生委員8名の方々にご参加いただいた。地域の特徴をもとに起こり得る災害について説明だったため避難の際に取るべき行動を具体的に知ることが出来ました。また講習後の情報交換会では介護支援専門員より民生委員との交流の場は普段ないので貴重な場になった、実際の避難計画に対しての現状も聞くことができたため地域の情報も聞けてとても参考になったなどの意見が聞かれました。民生委員からは各地域での危機感の共有の必要性や個別避難計画についても今後も話し合いが必要と感じたなどの意見がありました。災害について地域の特徴と関連しながら学ぶことができましたが災害時の対策についての備えや話し合うべき課題などがより具体的となった研修となりました。今後も介護支援専門員と地区の民生委員との交流が図れるよう取り組んでいきます。

地域包括支援センター敬寿会



1 総合相談に関する取組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
令和7年11月13日	愛らんど、大森、 敬寿会圏域	日頃のケアマネジメント業務について

◇ 地域ケア会議 個別事例 10回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 関係機関会議・行事等への参加、地区会議・役員定例会等への参加

内容	鈴川地区
民生委員児童委員定例会	12回
地区社協常任理事会	12回
地域福祉推進会議	1回
福祉協力員研修会	2回
その他	三者懇談会 2回 高齢者のつどい 1回 健康と福祉のいきいき交流会 1回 地区社協評議員会 1回

◇ 地区行事への参加 2回

鈴川地区：鈴川交流センター消防総合訓練 2回

◇ 認知症サポーター養成講座 1回

2 権利擁護に関する取組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 1件 消費者被害 1件
ACP／人生会議 1件 その他 2件（生活困窮等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 0件 高齢者虐待 2件 消費者被害 2件
ACP／人生会議 4件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 2回

◇ 圏域内サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 19回

サービス事業所連絡会・研修会 2回

その他（地域連携推進会議、調剤薬局との情報交換会） 2回

◇ 介護支援専門員に対する支援

個別対応 1回 ケース会議等 5回 事例検討会 1回

居宅介護支援事業所連絡会・研修会 2回

◇ 自立支援型地域ケア会議 4 事例

4 介護予防に関する取り組み

◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）

通いの場（百歳体操）・サロン 53 回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 8 回

紹介したい取り組み

事業名	鈴川おれんじカフェ
事業の目的	介護されている方や当事者の方が気軽に集える場所づくり
事業概要	認知症等自宅で介護されている方や当事者の方が気軽に集える場所を目指して令和 6 年 3 月より毎月開催しています。ミニ講話の講師は、鈴川地区の薬局、介護事業所の方や鈴川地区にお住いの方へ依頼し、介護の悩みや体験談など皆さんのお話を聞いたり、時には紙芝居や音楽を楽しんだりいろいろな活動してきました。令和 7 年度からはボランティアの方との共催となりました。毎回 15 名程の方が参加されています。 ■令和 7 年度の鈴川おれんじカフェ 4 月 紙芝居 5 月 リラクゼーション体操 6 月 いま、思う私の介護体験 7 月 ハーモニカ演奏（認知症当事者の方による演奏） 8 月 認知症について考える市民セミナーに向けた作品づくり 9 月 新しい認知症観とは？ 10 月 みんなで歌おう民謡 11 月 認知症の方への正しい接し方 12 月 クリスマスコンサート 1 月 サイコロトーク～思う存分語ってください！～ 2 月 自宅で役立つ福祉用具 3 月 絵本・紙芝居を楽しもう 日時：毎月第 4 木曜日 14 時～15 時 場所：鈴川交流センター 集会室 参加費は無料。前日まで申込必要。 
成果または感想	- 認知症のご本人やご家族、認知症に関心のある地域の方々が気軽に参加し、認知症について学んだり、コーヒーを飲みながら和気あいあいとおしゃべりをしています。 - 介護された経験のある方、親子で参加して下さる方同士で話をするこもできており、悩みを共有する場にもなっています。 - 鈴川地区にお住いの方や地区の介護事業所の方を講師に迎えることで、つながりや認知症に関する支援の輪が広がっていくのではないかと考えています。近所の方や地区の開業医の先生から話を聞いた、と参加される方もいらっしゃいました。

4 たきやま地域包括支援センター

1 総合相談に関する取り組み

- ◇ ネットワーク連絡会 1 回 6 月 27 日 14:00~15:30
- ◇ 地域ケア会議 個別事例 10 回 地域課題 1 回
- ◇ 広報 12 回
 - ・センターだよりの発行 4 回（全戸配布 1 回）
 - ・公式 LINE の配信 8 回
- ◇ 地区会議・役員定例会等への参加 39 回
 - ・地区社会福祉協議会 8 回（総会 1 回、福祉推進会議 1 回、推しやべり会 1 回、幹事会 2 回、我がごと、まるごと地域づくり 2 回、合同懇談会 1 回（連合会、民生委員、福祉協力員））
 - ・民生委員児童委員定例会 11 回
 - ・福祉協力員 16 回（研修会 3 回、代表者会議 3 回、三役会議 10 回）
 - ・三者懇談会 9 回 ・青少年健全育成連絡会総会 1 回 ・きずな作りの会 3 回
- ◇ 地区行事への参加 6 回
 - ・岩波地区夏祭り 1 回 ・滝山小学校一斉下校 1 回 ・連合会懇談会 2 回
 - ・民生児童委員懇談会 1 回 ・福祉協力員三役懇談会 1 回
- ◇ 認知症事業関連 11 回
 - ・認知症勉強会 2 回 ・認知症カフェ 6 回 ・認知症カフェ立ち上げ支援 3 回
- ◇ 出前相談 8 回



2 権利擁護に関する取り組み

- ◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む） 14 件
 - ・成年後見／福祉サービス利用援助 3 件 ・高齢者虐待 4 件 ・生活困窮 1 件
 - ・消費者被害 1 件 ・困窮者支援 4 件 ・ハラスメント 1 件
- ◇ 普及啓発活動 42 回
 - ・成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害、介護離防止に関する周知啓発 34 回
 - ・ACP／人生会議 8 件（サロン等）

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取り組み

- ◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 6 回
 - ・事例検討会 1 回 ・研修会 4 回 ・連絡会 1 回
- ◇ 小規模多機能型居宅事業所連絡会 8 回
 - ・事例検討会 3 回 ・連絡会 1 回 ・幹事会 4 回
- ◇ 地域密着型サービス事業所運営会推進会議参加 33 回
 - ・小規模多機能型居宅 5 事業所 ・地域密着型介護老人福祉施設 2 事業所
 - ・グループホーム 2 事業所 ・地域密着型通所介護、認知症型通所介護 1 事業所
- ◇ 介護支援専門員に対する支援 9 回
 - ・個別対応 2 回 ・ケース会議等 7 回
- ◇ 自立支援型地域ケア会議 2 回
 - ・たきやま包括主催 4 事例

4 介護予防に関する取り組み

- ◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援） 6回
 - ・通いの場立ち上げ支援 6回
- ◇ 介護予防普及啓発 48回
 - ・シニア向け健康教室 3回
 - ・サロン、健康講話 39回
 - ・その他（公民館共催事業等） 6回

紹介したい取り組み

事業名	たきやま地区シニア向け健康教室
事業の目的	高齢者の認知症予防と理解促進 終活に向けた意識の向上
事業概要	「備え」をメインテーマに据え、専門家を講師に迎えて家財整理、墓じまい、成年後見制度、人生会議に関する出前講座を実施。あわせて、包括や市の取り組み、健康づくりについても周知を図ってる。開催にあたっては、あえて告知から「認知症」というワードを外すことで参加のハードルを下げ、自分にはまだ関係ないと感じている層でも参加しやすいよう工夫した。 
成果または感想	「備え」という新たなテーマにより、初めて講座に足を運ぶ新規参加者の掘り起こしに成功した。専門家による個別具体的な回答が「早めに準備を始めたい」という住民の意欲向上に繋がった。 また、備えを入り口に認知症予防や包括の役割についても周知でき、今後の健康づくりへの関心を高めることができた。

事業名	福祉推進会議 ～災害と要支援者～
事業の目的	高齢者や障害者を含む地域住民の命と暮らしを守る防災、地域づくり
事業概要	ネットワーク連絡会で、障害者の避難に関する課題があがり、地域推進会議にて研修として取りあげていただく。テーマ1「安心して暮らすために地域でつながる」としてハザードマップの解説と地域特性の課題を学ぶ。テーマ2では「個別避難計画作成事業」として、概要説明や作成手順など具体的な運用について解説。テーマ3「リレートーク」として、各部門の代表者8名による災害についての課題等を発表する。また介護保険事業所にも声をかけ研修会に参加していただき、地域課題を一緒に学ぶ機会となった。
成果または感想	災害時に備えた地域連携の強化には、日頃からの「顔の見える関係づくり」が不可欠であることを改めて確認できた。また、災害を他人事ではなく自分事として捉え、平時から備える意識を高める機会となった。地域福祉と防災の両面から、行政、関係機関、介護保険事業所、地域住民が連携し、要支援者を含めた防災力の向上と、誰もが安心して暮らせる地域づくりに努めていきたい。

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談に関する取組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
5月31日	第六地区	R6年度事業報告とR7年度事業計画の意見交換
12月10日	第六地区	山形市防災対策課防災アドバイザーの防災対策の講話を聞いたうえで、GWにて各町内の自主防災体制について考える

◇ 地域ケア会議 個別事例 5回 地域課題 1回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 関係機関会議・行事等への参加 4回

◇ 地区会議・役員定例会等への参加

内容	第六地区
民生委員児童委員定例会	12回
福祉推進会議	1回
福祉協力員研修会	3回
その他	三者懇談会 14回 第六地区社会福祉協議会主催会議 16回

◇ 地区行事への参加 1回

第六地区：南部公民館まつり

◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ／声掛け訓練等 23回

◇ 出前相談 1回（南部公民館まつり） ◇ SNSでの情報発信 0回

2 権利擁護に関する取組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 4件 高齢者虐待 1件 消費者被害 0件
ACP／人生会議 0件 その他 4件（例：生活困窮等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 0件 高齢者虐待 0件 消費者被害 2件
ACP／人生会議 6件 その他 0件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 4回

◇ 圏域内サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 23回 サービス事業所連絡会 1回

◇ 介護支援専門員に対する支援

個別対応 16回 ケース会議等 6回 事例検討会 2回
居宅介護支援事業所連絡会・研修会 4回

◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

4 介護予防に関する取組み

◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）

通所型サービスB 0回 通いの場（百歳体操）・サロン 2回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 8回 出前講座 39回

認知症予防教室協力 0回 その他（公民館共催事業等） 2回

◇ 介護者支援（介護者の会／介護者サロン） 0回

紹介したい取り組み

事業名	ふれあい人生すごろく
事業の目的	地域の方が気軽に人生会議ができる環境作り。信頼できる家族などと話しができる「きっかけ」作りを行ない、元気なうちから話し合いを行うことができるようになるため。
事業概要	地域住民に人生会議の普及啓発を進めていくにあたって、まずは地域住民の方が人生の最終段階について意識をしているのか、医療や介護について話し合いを行なっているのか、令和3年度にアンケート調査を行った。アンケートの結果、話し合いの重要性には多くの方が賛成しているが、実際に行動に移す方はまだまだ少ないのが現状。話し合うきっかけがないため、人生会議ができていないということがわかった。信頼できる家族などと話ができる「きっかけ」作りができるよう、すごろく形式のツールを作成することにした。
成果または感想	①ゲーム形式のため自然に会話が生まれる ②正解がなく、専門職が誘導しなくてもよい ③日常的な質問から、その人の価値観が見えてくる ④家庭や地域でも活用でき、医療介護の場に限定されない これらのことを考慮し、「ふれあい人生すごろく」を作成（写真参照）、包括職員の担当のご家庭で試しにすごろくを実施する。 《すごろくをとしての感想》 ・なかなか話す機会がないからとても良かった。この期に話しができるとよい。 ・「こんな考えだったとは知らなかった」といった気づきがあった。 ・家族間の会話が増えた。 第六地区医療関係者連絡会にて、医療・福祉関係機関へ周知することができた。病院や薬局、施設の待合室などに掲示することで、患者や利用者へ周知できるのではないかと様々な意見をいただいた。 今後はホームページにも掲示しながら「ふれあい人生すごろく」の周知を進めていきたい。



6 山形西部地域包括支援センター



1 総合相談に関する取り組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

担当圏域において 2025 年問題の一環として取り上げられてきた地域包括ケアシステムの現状について、改めて地域の関係者と共に確認し、向かうべき方向性を共有した。

開催日	地区	内容
7/9、/15、/18、/22、/25	本沢、南山形、大曽根、西山形、村木沢	地区ネットワーク連絡会「地域包括ケアシステムにおける各地区的現状を考える」
1月28日	5地区	センターネットワーク連絡会「高齢者や支援が必要な世帯へ地域で何ができるか～支援力を高めるためには～」

◇ 地域ケア会議 個別事例 9回 地域課題 0回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 関係機関会議・行事等への参加 7回

◇ 地区会議・役員定例会等への参加

内容	南山形地区	本沢地区	西山形地区	村木沢地区	大曽根地区
民児協定例会	4回	4回	5回	10回(我が丸)	3回
地域福祉推進会議	1回	1回	1回	1回	1回
福祉協力員研修会	2回	2回	2回	3回	1回
その他	福祉つむぐ会12回 社協三役会1回	三者懇談会1回 地区社協2回 買い物バス交流会	自治推進員会議	サロン代表者交流会 あじさいバス検討会	三者懇談会1回 地区保健衛生部健康講話

◇ 地区行事への参加 6回

大曽根地区：文化の祭り 南山形地区：敬老会、商工会研修会、福祉道場

本沢地区：65歳以上明るい未来に備える研修会

◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ

西山形小キッズ1回/オキナグサ6回

◇ 出前相談 26回 (南山形福祉をつむぐ会、村木沢我が丸)

2 権利擁護に関する取り組み

担当圏域において消費生活センターへの相談件数が多いことを知って、センターでもサロンやセンターだよりに消費者被害について啓発活動を実施した。

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 2件 高齢者虐待 0件 消費者被害 0件
生活困窮 5件 その他 19件（認知症、近隣トラブル、引きこもり等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 2件 消費者被害 4件
ACP／人生会議 9件（120名）

項目/地区	南山形地区	本沢地区	西山形地区	村木沢地区	大曽根地区	延べ件数
後見関係	0	1	0	1	0	2
虐待関係	0	0	0	1	0	1
生活困窮等	3	0	1	1	0	5
その他	9	5	2	2	1	19
計	12	7	3	4	1	27

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

前年度の介護者に対するアンケートを基に、ケアマネジャー、介護サービス事業所と協力し、仕事と介護の両立を進めるべく、介護者に対する支援事業をおこなった。

◇ 居宅介護支援事業所等連絡会 3回（医療機関、警察、事例検討会含む）

◇ 圏域内サービス事業所との連携

- ・地域密着型サービス事業所運営推進会議参加（4カ所） 17回
- ・本沢地区福祉施設相談員情報交換会 2回
- ・「やさしいカイゴ教室」圏域内介護サービス事業所から協力

◇ 介護支援専門員に対する支援

- ・個別対応 2回 ケース会議等 1回

◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

4 介護予防に関する取組み

◇ 地域団体支援（運営支援）

- ・通いの場（百歳体操）7カ所65回 ・サロン42回 ・もりもり応援隊派遣調整 24回

◇ 介護予防普及啓発

- ・南山形百歳体操健康講話9回 ・大曾根さわやか荘出前講座 5回
- ・認知症予防教室協力 元双葉小1回 ・西山形はつらつ元気教室 2回

◇ 介護者支援（介護者の会／介護者サロン）

- ・やさしいカイゴ教室 ・西山形いっぴぐ会 計11回

紹介したい取り組み

事業名	ここで深呼吸しませんか？ やさしいカイゴ教室
事業の目的	R6年度、担当圏域の居宅・介護事業所が支える、働きながら介護を行うビジネスケアラー約100名にアンケートを実施。その結果報告と介護者が日々抱える不安などに答える会を催し、気持ちを軽くして介護を続けてもらえるようにする。
事業概要	日時 令和7年10月18日（土） 13:30～15:00 場所 主会場：菅沢荘会議室 副会場：菅沢荘ダイルーム（臨時宅老所） 実施主体 南西部地区居宅介護事業所連絡会 山形西部地域包括支援センター 内容 令和6年度実施のアンケートの結果報告 特養入所について（圏域内特養の相談員より説明） 小規模多機能サービスの内容について 在宅看取りについて 質疑応答
成果または感想	R6年度のアンケートは私達の予想を超える介護者の思いや本音が寄せられ、それをどのようにお返しすればよいのか熟慮を重ねました。 当日は25名という予想以上の参加者と、宅老所として開放したデイサービスを利用する高齢者が1名（デイ職員が対応）参加。淹れたてのコーヒーの香りが漂う中、お伝えしたいことが多すぎて内容がかなり盛りだくさんでしたが、参加者からは「わかりやすい内容だった」や「日々の介護で不安が大きいのが、今回の企画は寄り添ってもらえていると感じがした」などの感想が寄せられました。 次回を望む声も多く、連絡会の会員と共に、日々気持ちを軽くして介護を続けてもらえるような企画を考えていきたいと思いました。

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



1 総合相談に関する取組み

◇ 地区ネットワーク連絡会 ※両地区地域福祉推進会議と合同開催

開催日	地区	主な議題
10月23日	第一	テーマ「災害時の気付きを深め、今後の取り組みを考える」 ①赤十字防災セミナーを活用。災害エスノグラフィーを体験し、自助と共助についてGWを行った。 ②段ボールベッドや簡易トイレの展示・紹介
11月14日	第二	テーマ「認知症にやさしい地域づくりをめざして」 認知症サポーター養成講座受講後、長谷川和夫先生の著から抜粋したプリントも題材とし、地域でできることについてGW。

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 5回
- ◇ いきいきサロンへの参加 36回
- ◇ 地区役員定例会への参加 93回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会、いつまでもいきいき講座

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会、高齢者と小学生のつどい

- ◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護に関する取組み

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回
- ◇ 認知症カフェ 6回

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 4回
- ◇ 圏域内居宅情報交換会（事例検討会等） 2回
- ◇ 介護支援専門員への個別支 36件
- ◇ チームわん・つー！情報交換カフェ（圏域内福祉関係等事業所の集まり） 4回

4 介護予防に関する取組み

- ◇ すこだま元気塾 5回
- 自分の状態を確認しかつフレイル予防の重要性も知ってもらえる内容で計画。山形市聴こえくっきり事業も取り入れる他、福祉事業所や当法人リハビリ科、明治安田生命の協力も得てフレイル講話、身体機能の計測、運動を実施。地区の社会資源も紹介し社会参加へ繋げることを意識した。

紹介したい取り組み

事業名	おれんじカフェ Q1（第一地区）
事業の目的	認知症本人や家族、地域住人、専門職誰でも集え、地域で認知症について理解を深め地域で支援する。
事業概要	H30～おれんじカフェさくらとしてさくら地域包括支援センターが主催となり百歳体操後に開催していた。コロナ禍で包括の法人自体が飲食禁止となり、また、参加人数減少もあり、主催を第一地区社協で受けていただいた。おれんじチームから認知症に関するミニ講話をしてもらい認知症についての理解を深めたり、講師へ依頼し手先を使いながらバルーンアートを作ったり、いっぽぐカードで今の気持ちを皆で話したりした。毎回豆から挽いたコーヒーを飲みながら、参加者同士ゆっくり話す時間も設けた。認知症サポーターからの脳トレ体操も実施。
成果または感想	・コロナ後おれんじカフェさくら時代は参加者が一桁になった時期もあったが、コーヒータイムを設けた事や口コミや回覧の効果もあり毎回20名以上参加。 ・場所をQ1で定着して行う事ができた（以前は工事のためにまなび館→中央公民館→Q1と変遷）ため、時間と場所が認識され百歳体操に来ていない方の参加者が増えた。 ・終了後には次回の打ち合わせを行い、参加者代表として認知症のご本人にも役割を持って参加していただいた。「ここに来て何をするかではなく、来る事がとても楽しみ」と感想あり、安心して過ごせる居場所として提供でき、ご本人が帰る際は認知症サポーターと一緒に歩き送り届けてくれた。  ・今後も認知症になっても安心して過ごせる地域にできるよう、内容を地域と共に考えていきたい。
事業名	山形市認知症予防教室（山形学院高等学校）
事業の目的	認知症の理解を深め普段の生活習慣を振り返る機会を持つことで現在の生活を確認し、今後の生活に活かしてもらう。
事業概要	おれんじサポートチームが各地区で展開している4回コースの「山形市認知症予防教室」を第二地区にある山形学院高等学校生徒ホールを会場として実施。山形学院高等学校、第二地区社会福祉協議会とも共同開催とし、教室開催の周知、募集に協力してもらった。
成果または感想	新型コロナウイルス流行以前は山形学院高等学校で第二地区サロンを定期開催し、学生と地域住民が交流する機会があった。現在第二地区サロンは西部公民館を拠点として年10回開催されている。しかし山形学院高等学校周辺エリアの地域住民は西部公民館が遠く、移動手段の課題があり参加が難しいとの声も聞かれていた。また、第二地区は数年前から各研修会や会議で認知症の理解、対応について学ぶ機会を多く持ってきた経過があり、令和7年度は認知症にやさしい第二地区を目指して「第二地区チームオレンジ」を掲げることとなった。令和7年度は第二地区地域福祉推進会議で認知症サポーター養成講座を行っており、数多くの認知症サポーターも生まれた。「認知症カフェをしたい」という意見も出ていた。今回の教室開催を機に、山形学院高等学校側は今後も定期的な地域住民の集まる場の提供や認知症カフェ開催に理解や協力を示してくれている。この教室の開催を機に学校と連携していく足掛かりをつかむことができ、西部公民館には行くことが難しい地域住民に対しての対応を検討していくことに繋がられた。 

8 地域包括支援センターかがやき



1 総合相談に関する取組み

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
2/1	第九地区ネットワーク連絡会（地区防災研修・福祉懇談会共催）
2/25	第四地区ネットワーク連絡会（福祉懇談会共催）
3/10	圏域ネットワーク連絡会（書面） ① 令和7年度地域包括支援センターかがやき事業 中間報告について

◇ 地区役員定例会への参加 36回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会、地域福祉推進会議、地域福祉懇談会、さんさんカフェ・運営委員会 多数

◇ センターだよりの発行 4回（4月・7月・10月・1月発行）

2 権利擁護に関する取組み

◇ 虐待防止に関する住民への周知を図るため、広報誌に「虐待発見チェックリスト」を掲載した。

◇ 「もしもの時に備える」ことへの啓発として広報誌に「もしもシート」を掲載した。

◇ 権利擁護相談 37件、（延べ件数38件、新規相談受付分のみカウント）

実相談件数37件。後見関係8件、虐待関係9件、生活困窮関係20件、その他延べ0件。

昨年増加した生活保護・生活困窮にかかわる相談件数がさらに増加しているが、権利擁護を含む相談としてはほぼ横ばいで推移している。相談経路については、他支援機関からの相談も増えており重層的支援体制の充実が進んできていると言える。65歳未満の方の相談が延べ19件あり、年齢を問わず対応

項目 / 地区	第3地区	第4地区	第9地区	その他	不明	延べ件数
後見関係	3	1	1	0	1	6
虐待関係	4	0	0	0	0	4
生活困窮等	7	11	4	1	1	24
その他	1	1	2	0	0	4
計	15	13	7	1	2	38

しているが、支援を必要とする方の早期発見、早期介入できる事により防げる課題も多く、予防的関わりが重要と言える。複合的課題については他機関連携が必須であり、包括としてその一端を担うべくネットワークの拡充に努めたい。年々増加している身寄りのない方の支援も増えている。件数には含まないが、離れている家族に連絡がつかない、警察からの相談等による包括への安否確認の相談は17件 8050問題と言われる相談が2件 仕事と介護の両立について1件の相談をうけている。

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 10回

◇ 圏域内介護支援専門員研修会 2回

◇ 圏域内居宅、小規模事業所管理者懇談会 1回

◇ 幹事会 5回

介護支援専門員研修会	個別支援（介護支援専門員からの相談対応）
第1回圏域内介護支援専門員研修会 薬局とケアマネの連携について ※9/4圏域内薬局薬剤師6名 参加25名 ・第2回圏域内介護支援専門員研修会 介護保険外の制度のつながりについて ※2/13多機関協働支援センター、生活サポート 相談窓口スタッフ 参加26名 ※圏域内居宅小規模事業所管理者連絡会 6/3 各事業所管理者が集まり、日頃の業務について、懇談内容で話し合われた ※ケアマネ向けの様々な研修が増えている中、幹事を中心として圏域内ケアマネの要望に沿った内容での研修を企画実施。アンケートでは概ね好評となっており、ケアマネの資質向上につながっていると考ええる。	・ケアマネからの個別相談は31件寄せられた。包括支援センターと連携のうえチームでかわる意識が高まり、気軽に相談できる環境が整ってきたことも影響していると思われる。

4 介護予防に関する取組み

「住民主体の通いの場」については、長寿支援課予防推進係及び生活支援コーディネーター等の協力を得て、立上げ支援や継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などにも場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われており、参加者同士の関係性の深まりとともに生活支援等の互助も進んできている。

◇ 介護予防教室 延べ 237 名参加

＜紹介したい取り組み＞

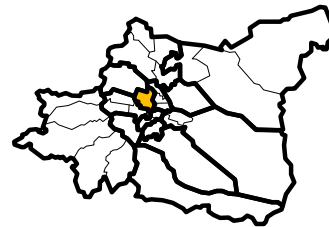
◇「フレイル予防を学ぼう」講座（全3回＋ステップアップ講座）北部公民館

10、11月に以下のテーマで講座を実施し、延べ76名参加。圏域内の一般の方を対象に広く参加者を募る従来通りの方式で開催。昨年度までに同講座を修了した住民が「フレイルサポーター」として講座運営の協力やフレイルチェック方法の指導等、主体的に取り組んでいただいた。

「フレイルって何だろう？」「聴こえのフレイルについて」「食と栄養で守る未来の健康」「口腔について」「運動について」「社会参加について」「ステップアップ講座 調理実習」



9 霞城北部地域包括支援センター



1 総合相談に関する取組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
7月2日	第七	包括活動計画について・包括パンフレット作成について
R83月4日	第七	令和7年度活動実績と内容報告・包括パンフ周知方法について
10月29日	第七	居宅・サービス事業所交流会 地域との関わり方について

◇ 地域ケア会議 個別事例 9回 自立支援型（包括主催）4回

◇ センターだよりの発行 4回（内1回全戸回覧）

◇ センターパンフレット発行 1回

◇ 関係機関会議・行事等への参加 17回

◇ 地区会議等への参加 6回（

◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ 18回

2 権利擁護に関する取組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 2件 高齢者虐待 6件 消費者被害0件
その他 22件（例：生活困窮等）複合的な課題をもつ世帯への支援3件

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 0件 消費者被害1件
ACP／人生会議 5件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 1回

◇ 圏域内サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 6回 サービス事業所連絡会1回

◇ 介護支援専門員に対する支援

個別対応 16回 ケース会議等 9回

居宅介護支援事業所連絡会・研修会 1回

◇ 自立支援型地域ケア会議 市主催2回 包括主催 4回

4 介護予防に関する取組み

◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）

通いの場（百歳体操）・サロン 10回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 9回 出前講座 8回
 ◇ 介護者支援（介護者の会／介護者サロン） 2回

紹介したい取り組み

事業名	清水町カフェ
事業の目的	令和6年12月より開始した認知症カフェを継続的に開催し、参加者が安心して過ごせる交流の場を安定的に提供することで、認知症の人と家族の孤立防止および生活の質の向上を図る。また、地域住民の理解促進と相談支援機能の充実を通じて、地域全体で支え合う体制づくりを推進する。
事業概要	令和6年9月、認知症市民セミナーに参加した清水町住民有志から、自分の町内会でもやってみたいとの相談があったことが契機になっている。町内会のサロン活動等も活発な町内会であるため、認知症カフェの立ち位置をスタッフ同士で繰り返し話し合うことでサロンとの差別化を図った。おれんじサポートチームえがおの協力を得ながら 認知症になっても安心して住み続けることができるようにするために前もって様々な知識を得るために「成年後見制度と福祉サービス利用援助事業」について学んだり嶋交番から「特殊詐欺」についての注意点を教わったりしながら、その感想などを楽しく話し合った。また、認知症当事者の参加もあることから靴の履き間違いを防ぐための名札作りをしたりネームプレート作りを行ったりしたことで安心して参加できるような工夫も行った。  
成果または感想	生活の様子が気がりではあるがカフェに参加していない方々に参加してもらうための方法を地域のスタッフと共に考えた。「開催日が分からなくなるのではないか。」「初めて参加する時は心理的にハードルがあるのではないか。」との考えから、可能な時は地域の役員さんが直接自宅まで声をかけに行ってくれるようになった。顔なじみの方から誘ってもらえることで安心して参加することができるようになった。認知症の相談が多い地区でもあるため、早期の相談に繋がるきっかけを作りたい。また、今後も認知症当事者の方もその家族の方も参加しやすい内容・雰囲気作りを行い認知症の正しい知識や対応方法が地域に浸透するよう支援を行いたい。

10 霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談に関する取り組み

単身高齢者から「自分でバスやタクシーに乗ってスーパーには行けるが、重いものを持って帰れない」。また、「タクシーに乗って通院できるが、病院内での移動や薬もらい、支払いが大変だ」などの外出の負担感や困りごとの相談が寄せられた。健康な方でも、車の運転が難しくなったときに備えることも必要だと考え、自分が外出に困るときはどんな時か、理想の仕組みや取り組みについて皆さんの考えを共有した。

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
R8年2月18日	三地区合同	R7 年度事業報告及び高齢者の外出について状況共有

- ◇ 地域ケア会議 個別事例 6回 地域課題 0回
- ◇ センターだよりの発行 3回
- ◇ 地区会議・役員定例会等への参加 39回（必要に応じ、下記のような地区毎の表形式も可）
 - ・各地区福祉協力員研修会3回（兼福祉推進会議を含む）
 - ・第十地区民生委員懇談会1回
- ◇ 地区行事への参加 2回
 - ・飯塚地区ふれあいの集い
 - ・榎沢地区健康まつり
- ◇ 認知症サポーター養成講座1回
 - ・認知症カフェ（ミニカフェ In やよい3回・おれんじカフェ In 山商3回
 - ・じょうなんおれんじカフェ In 大原学園1回）

2 権利擁護に関する取り組み

- ◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）
 - 消費者被害1件 その他 12件（例：老人福祉施設等の措置支援）
- ◇ 普及啓発活動（広報誌）
 - 消費者被害 1件 ACP／人生会議 1件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取り組み

- ◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 1回
- ◇ 圏域内サービス事業所との連携
 - 地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 31回 8か所
- ◇ 介護支援専門員に対する支援
 - 個別対応 10回 ケース会議等 9回
- ◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

4 介護予防に関する取り組み

- ◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援） 通いの場（百歳体操）・サロン 29回
- ◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 6回 出前講座 5回
 その他（公民館共催事業等） 1回

紹介したい取り組み

事業名	じょうなんおれんじカフェ In 大原学園
事業の目的	カフェを通して、認知症について学ぶ機会をつくり、認知症を理解し、身近なものとしてとらえていただけるよう、また、専門職がともに参加し、認知症に関する情報提供ができ、つながりができる。
事業概要	数年ぶりに、町内会、大原学園との共催により開催。ミニ講和では、おれんじサポートチームこころより、「認知症は自分ごと・・・認知症機能と運動の関係について学ぼう」と題して講話をいただきました。大原学園の学生考案による運動では、マツケンサンバ、上を向いて歩こう等の曲に合わせて運動を行い、大いに盛り上がりました。カフェタイムでは地域の方、学生、専門職が、講話の感想や学生考案の運動についてなど、和やかな雰囲気の中懇談し、認知症についての理解を深めました。    
成果または感想	ミニ講和では、講師とファシリテーターとの絶妙なやりとりを行いながらの講話で、認知症を我が事としてとらえることの必要性について、わかりやすく学べました。準備段階から学生の積極的な参加があり、学生考案の運動では、インストラクターさながらの素晴らしい説明で、参加者も気持ちよく身体を動かしていました。参加者からは「10歳若返った感じ。」「とても楽しく学べた。こんなに楽しかったのは久しぶり。」「毎年開催してほしい。絶対参加します。」などの感想があり、参加者の笑顔が印象的で、会場が一体となって盛り上がりを見せました。

⑪ 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談に関する取り組み

◆ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
7月2日	蔵王	・令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について報告 ・地域包括支援センターの対応事例報告と意見交換

- ◆ 地域ケア会議 個別事例 12回 地域課題 12回
- ◆ センターだよりの発行 4回
- ◆ 蔵王地区社会福祉協議会理事会 4回
- ◆ 民生児童委員定例会 12回
- ◆ 福祉協力員研修会 3回
- ◆ 地区福祉推進会議・地区ボランティア懇談会 各1回
- ◆ 山形市立蔵王第一中学校運営推進会議 3回
- ◆ 町内会ごとの三者懇談会 11回
- ◆ 山形明正高校・東海大山形高校 除雪ボランティア打合せ会 各1回
- ◆ 地区行事への参加 11月2日蔵王地区まつり
- ◆ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ／声掛け訓練等 3回
- ◆ 令和7年度蔵王山田町内会 高齢者移動支援補助事業支援

2 権利擁護に関する取り組み

- ◆ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）
成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 0件 消費者被害 0件
- ◆ 普及啓発活動
成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 1件 ACP／人生会議 2件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取り組み

- ◆ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 2回
- ◆ 圏域内サービス事業所との連携
地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 30回
- ◆ 介護支援専門員に対する支援
個別対応 16回 ケース会議等 8回 事例検討会 1回
居宅介護支援事業所連絡会・研修会 2回
- ◆ 自立支援型地域ケア会議 2回4ケース

4 介護予防に関する取組み

介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 11回 公民館共催事業等 1回
高齢者いきいきサロン等への職員派遣 43回

紹介したい取組み

事業名	蔵王地区社会福祉協議会との共催事業 「蔵王地区健康教室」
事業の目的	シニア世代の健康づくり
事業概要	65歳以上のシニア世代自らが健康を意識して生活できるよう、蔵王コミュニティーセンターにおいて、毎月第四月曜日に健康教室を開催しています。 「身体的フレイル：筋力や運動機能の低下」、「認知的（精神・心理的）フレイル：うつ状態や軽度の認知機能低下」、「社会的フレイル：社会との繋がり希薄化」を防ぐために、専門職をお招きして講話や実験、実習を通じて必要な情報を伝えます。令和7年度はこのようなラインナップで開催しました。 そして、最終回はACP人生会議。元気なうちから考え、そして話すことの大切さを伝えます。
成果または感想	健康意識が高い中高年が増加する中、自助・互助の考え方や正しい情報を伝え、蔵王地区のシニア世代の健康づくりのお手伝いができると思います。

12 済生会愛らんど地域包括支援センター

1 総合相談に関する取組み



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
(第五地区) 7月2日 (第八地区) 7月3日 (東沢地区) 6月25日	・令和6年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告 ・令和7年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画 ・令和6年度 生活支援コーディネーター事業報告 ・令和7年度 生活支援コーディネーター事業計画 ・愛らんど地域包括支援センターネットワーク連絡会設置要綱の説明 ・意見交換及び情報交換

- ◇ 民生委員児童委員との懇談会 (第五地区、第八地区)
- ◇ 民生委員等地域の方々を通して臨時に広報紙配付協力を依頼し情報収集や啓発活動
- ◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会
市営松原住宅・県営あたご団地・天満住宅(共催) 各1回
- ◇ 地区役員定例会等への参加 23回
(民生委員児童委員協議会定例会、東沢地区社会福祉協議会定例会、福祉協力員世話人会)

◇ 地域づくり活動

第五地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、愛らんど健康講座、サロン運営継続の支援

第八地区：福祉協力員研修会、地域での100歳体操立ち上げ支援、サロン運営継続の支援
愛らんど健康講座

東沢地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、
愛らんど健康講座、サロン運営継続の支援

- ◇ センターだよりの発行 5回(定期発行のほか、臨時号1回健康講座案内)

2 権利擁護に関する取組み

- ◇ 認知症サポーター養成講座(学童クラブ)
- ◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援
- ◇ 後見支援チーム会議
- ◇ 高齢者虐待対応(実態把握、個別ケア会議の開催、関係機関会議)
- ◇ 消費者被害への対応と啓発活動

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取組み

- ◇ 地域ケア会議(個別及び自立支援型)の開催 8回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 11件
- ◇ 圏域内居宅介護支援事業所等合同連絡会 1回
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議及び地域密着型通所介護事業所運営推進会議 34回

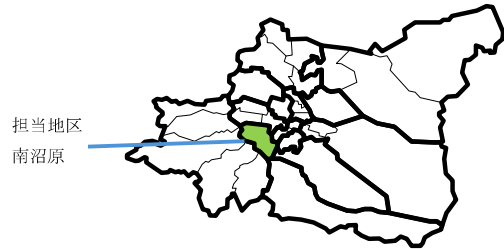
4 介護予防に関する取組み

- ◇ 東部公民館事業共催 いきいき100歳体操の運営・協力（第1、3木曜日）
- ◇ 愛らんど健康講座 ①栄養・薬の講話、山形交響楽団ミニコンサート②チェアヨガ
③バッククッキング④減塩対策講座⑤認知症予防教室（おれんじえがお共催）
- ◇ 地域サロンにて介護予防に資する講話を実施

紹介したい取り組み

事業名	圏域内居宅介護支援事業所等合同連絡会
事業の目的	この連絡会は、圏域内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員等が、日頃の業務に必要な情報を共有するとともに、お互いの理解と学びを深めることを目的に開催した。
事業概要	圏域内居宅連絡会は、愛らんどに東沢地区が移管されたことにより、圏域内に居宅を有することとなったため開催している。当初は圏域の内事業所に限定し開催したが、より広く情報交換をしたいという参加者の意向や、包括によって有する居宅の数に差があり、数が少ない包括圏域では有意義な開催となりにくい等の課題を感じたため、今年度は北東ブロックの包括のうち、有する居宅が少ない包括、愛らんど包括、包括大森、包括敬寿会の3包括合同で開催とした。 連絡会を開催にあたり、参加する介護支援専門員等の関心や興味のある内容で企画したいと考え、現状や課題改善について実態調査をおこない、課題や思いを整理した上でテーマを設定し、堅苦しくなく、ざくばらんに意見交換をおこなった。またグループには包括職員がファシリテーターで入るが、答えを出したり、指導するものではなく、話題を深掘りし、皆で共有できるように心がけた。 各介護支援専門員は、ケアマネジメント業務の場面場面で、苦手意識があるまたは、課題と思っていることはあるが、それぞれ工夫し対応していることが見えた。
成果または感想	包括支援センターとして日頃の関わりの中で感じていた課題について、居宅介護支援事業所側の認識を確認することが出来た点に大きな意義があった。結果として、同様の課題意識を持っていることも分かった。グループワークでは、包括職員が事前に目的や進め方を事前に共有し、統一した進行を行うことで、より踏み込んだ意見交換ができた。自己解決に至っていない理由として、経験不足や相談機会の不足、時間制約、苦手意識、改善方法がわからない、行動までは至らない等が挙がった。今回のアンケートを継続的に活用し、テーマ設定や支援内容の精度向上に活かしていきたい。

13 南沼原地域包括支援センター



1 総合相談に関する取り組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
8月28日	南沼原	ネットワーク連絡会 「お互いの町内会の取り組みを知り、おらだの町内会をより良くしよう！」

- ◇ 地域ケア会議 個別事例 8回
- ◇ センターだよりの発行 4回
- ◇ 関係機関会議・行事等への参加 7回
- ◇ 地区会議・役員定例会等への参加 27回
- ◇ 地区行事への参加 4回
- ◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ／声掛け訓練等 32回
- ◇ SNSでの情報発信 38回

2 権利擁護に関する取り組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 9件 高齢者虐待 5件
その他 19件（例：生活困窮・困難事例等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 2件 消費者被害 1件
ACP／人生会議 1件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取り組み

◇ 圏域内サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 37回 サービス事業所連絡会 8回

◇ 介護支援専門員に対する支援

個別対応 40回 ケース会議等 8回 事例検討会 2回

居宅介護支援事業所連絡会

（圏域内居宅介護支援事業所管理者連絡会 6回） 研修会 2回

（圏域内小規模多機能介護支援専門員連絡会 3回） 研修会 1回

◇ 自立支援型地域ケア会議 包括主催 2回（4件）

4 介護予防に関する取り組み

◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）

通所型サービスB 2回 通いの場（百歳体操）・サロン 19回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 4回 出前講座 2回

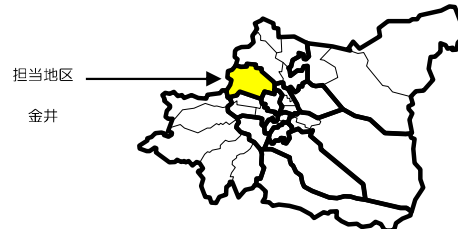
認知症予防教室協力 1回

◇ 介護者支援（介護者の会／介護者サロン）１回（センターだよりに掲載）

紹介したい取り組み

事業名	生涯現役バリバリ講座
事業の目的	人生 100 年時代をいきいきと過ごすため、心と体の健康を保ち、仲間との交流をしながら、自分らしく暮らし続けることを目指す
事業概要	町内会連合会・地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会と共催で実施。地域住民から関心のあるテーマについて意見をいただき、内容に応じて年 2 回講座を開催している。 1 回目は「食からのフレイル予防」をテーマ、市長寿支援課の管理栄養士より地区の健診データを踏まえた食生活の工夫について講話をいただいた。 2 回目は「知っておきたい！！介護保険制度の話」をテーマに介護保険について利用までの流れやサービス内容について講話を行い、その後グループトークを実施した。また、チーム南沼原（居宅介護支援事業所連絡会）にも協力いただき、講師およびグループトークのファシリテーターとして協力いただいた。  
成果または感想	1 回目の講座では、地区の健診データに基づき、今後気を付けたい食事の工夫について学ぶことができた。日頃の食事ですら意識すれば取り入れられる内容であり、参加者からは好評の声が聞かれた。 2 回目の講座では、講話後にグループごとの自由な意見交換の時間を設けたことで、介護保険制度の理解を深めるだけでなく、自身の介護経験などのエピソードを共有する場となり、大いに盛り上がった。事業所が地域に出向く機会を持つことは住民・事業所双方にとって連携の強化につながり、有意義であったと感じた。講座や日々の相談業務を通じて、これから介護に関わる人、今介護に関わっている人、過去に経験した人など、さまざまな立場の方が不安や悩みを共有し、気軽に話せる場の必要性を感じた。来年度は介護者支援の視点から、気軽に相談や交流ができる「介護カフェ」の開催を予定している。

1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談に関する取り組み

◇ ネットワーク連絡会／交流会／主催会議

開催日	地区	内容
6月25日	金井	金井地域包括支援センターネットワーク連絡会
12月4日	金井	金井地域包括支援センターネットワーク交流会
2月25日	金井	金井地域包括支援センターネットワーク連絡会

◇ 地域ケア会議 個別事例 8回

◇ センターだよりの発行 3回

◇ 関係機関会議・行事等への参加 17回

◇ 地区会議・役員定例会等への参加 19回

内容	金井地区
民生委員児童委員定例会	12回
福祉推進会議	1回
福祉協力員研修会	3回
その他 三者懇談会	6回

◇ 地区行事への参加 1回

金井ふれあい広場（金井文化祭）

◇ 認知症サポーター養成講座／認知症カフェ／声掛け訓練等 12回

2 権利擁護に関する取り組み

◇ 個別ケース対応（ケース会議等も含む）

成年後見／福祉サービス利用援助 2件 高齢者虐待 8件 消費者被害 0件
ACP／人生会議 0件 その他 17件（生活困窮等）

◇ 普及啓発活動

成年後見／福祉サービス利用援助 1件 高齢者虐待 1件 消費者被害 1件
ACP／人生会議 2件 その他 0件

3 包括的・継続的ケアマネジメントに関する取り組み

◇ 居宅介護支援事業所等研修会・連絡会 10回

◇ 圏域内サービス事業所との連携

地域密着型サービス事業所運営推進会議参加 25回 サービス事業所連絡会 3回
その他 0回

◇ 介護支援専門員に対する支援

個別対応 10回 ケース会議等 7回 事例検討会 5回
居宅介護支援事業所連絡会・研修会 2回 その他 0回

◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

4 介護予防に関する取組み

◇ 地域団体支援（立ち上げ・運営支援）

通所型サービス B 〇回 通いの場（百歳体操）・サロン 〇回

◇ 介護予防普及啓発

介護予防教室・健康講座等開催 15回 出前講座 3回

認知症予防教室・認知症サポーター養成講座 1回 その他（公民館主催事業等）

◇ 介護者支援

認知症カフェの場で介護者の会／介護者サロンも含めて開催。12回

紹介したい取り組み

事業名	認知症カフェ ほっとカフェ かなみ～な
事業の目的	地域ぐるみで本人、家族を支えあう拠点づくり
事業概要	認知症の方やその家族、地域の方々が認知症について理解したり対応方法を学んだり、気持ちを共有できる場として「認知症カフェ」を毎月開催しています。今年度は毎回50名くらいの参加者で活動しております。口コミや支援センターだよりなどの媒体などで情報を得て参加してくれています。地区の方やおれんじチームえがおのご協力を得ています。 日時：令和7年度は4月から3月まで毎月22日前後に開催（にんにん！） 14時から15時まで（1時間） 場所：金井コミュニティセンター 1階多目的ホールにて 対象者：どなたでもどうぞ 内容：「安心して認知症になれるまちづくり」の拠点となることを目指した企画です。 ★例えば内容をいくつかご紹介いたします。 ・認知症という病気を迎えるための心構えと予備力 ・介護体験談 ・クリスマスコンサート ・蓄音機演奏会 ・脳トレ ・軽度認知障害ってなに？ 12月クリスマスコンサート 「素敵な歌を聴きながら…」
成果または感想	《認知症を理解しご本人やご家族を地域ぐるみで支えあうための拠点》 成果 ・認知症を理解しご本人やご家族、地域の方々が気軽に立ち寄っておしゃべりしたり、認知症について学ぶことができています。 ・参加者同士で悩みを共有できる場であり、息抜きできる場となっています。 課題 ・認知症本人の参加と役割づくり



山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括支援センター後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 33回 (打ち合わせ等 9回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 71回 (打ち合わせ等 106回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会
権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会 55回 (打ち合わせ等 19回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 27回 (打ち合わせ等 4回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 138回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 1回

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 7回 (打ち合わせ等 7回)
- ◇ 課題整理・解決策等支援 15回 (打ち合わせ 9回)
- ◇ ワーキングチーム 9回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 25回 (打ち合わせ 20回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 16回 (打ち合わせ 38回)
- ◇ 基幹型主催・共催研修会の開催 3回 (打ち合わせ 4回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 45回 (打ち合わせ 33回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 30回 (打ち合わせ 1回)
- ◇ 認知症総合事業支援 25回 (打ち合わせ 2回)
- ◇ その他機関 84回 (打ち合わせ 5回)

4 事業所支援業務

- ◇ 日常生活総合事業 19回 (打ち合わせ 5回)
- ◇ 介護保険事業所 95回 (打ち合わせ 169回)

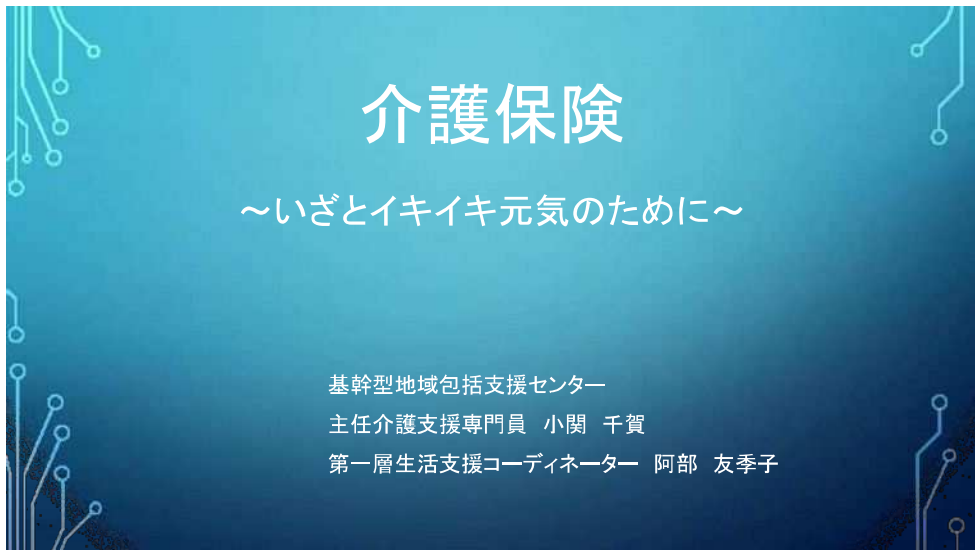
5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 112回
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 70回 (打ち合わせ1回)

紹介したい取り組み

事業名	介護保険事業所連絡会代表者会議～プレミアム会議～
事業の目的	サービス事業所連絡会の横のつながりや連絡会として見えている課題などを共有し解決に向ける。異なる連絡会同士がつながることで双方の課題を解決していく。
事業概要	山形市で策定した高齢者福祉計画で目指す「地域包括ケアシステムの深化」に向けて介護保険事業所の更なる連携を促進するとともに、それぞれの事業所がより自立支援にむけて事業を展開していくために、事業所連絡会がそれぞれ開催されています。現在 13 連絡会と R7 より地域包括支援センターの包括的継続的ケアマネジメント支援部会が参加。 介護保険事業所連絡会代表者、通称プレミアム会議に各連絡会の代表にお集まりいただき、連絡会の開催状況、介護保険事業取り組みの現状を共有するとともに、さらなる連絡会の連携のあり方について情報交換をしています。 
成果または感想	会議を通して、各連絡会の動き、考えが見えてきており、それを集約して大きな声として発信していけると思います。

紹介したい取り組み

事業名	シルバー人材センター会員研修会
事業の目的	「外部講師を招き会員の資質向上を図る」というシルバー人材センターの目的に対し、単独の包括では普段なかなかつながらない団体へ基幹型として関係性を確立する。
事業概要	令和7年11月10日～11日、シルバー人材センター山形支部の会員に向けて、会員が全員高齢者であり、家族を介護している人もいたり、今後の自分や家族が介護になった時に備えて介護のことを研修したいとの相談を受ける。会員の方々の現状を伺い、どのような内容を希望しているか確認、更に介護にならずに過ごすためにこちらよりお伝えしたいことを盛り込み当日、2日間で約300名に向けて、「介護保険と高齢者健康福祉のしおり」を使用し、介護保険についての説明と、地域でいきいきと活躍し続けるための意欲を引き出す日常生活のすすめや地域の社会資源の紹介をしました。 
成果または感想	研修会に参加した、ある会員の方より「滑舌も良く、分かりやすかった」とコメントいただきました。高齢者の方にお伝えする時に「滑舌が良い」って大事なんですね…勉強になりました！ 研修会でお伝えした「介護難民にならないためには、まず自分の地区の担当の地域包括支援センターがどこなのか確認すること」を実行された受講者の方が、地域包括支援センターにご連絡したようです。研修会を受けて連絡しましたという電話がきたよと包括よりご報告いただきました。